

役員立候補者等 公示

立候補役員名	全道理事						
(ふりがな) 氏名	たかはし しゅういち 高橋 修一	性別	(男) 女	生年月日	西暦 1970年11月23日	年齢	44歳
勤務先名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会						
会員番号	19220	市町村	札幌市				
主な活動歴	本業である北海道社会福祉協議会職員として、市町村社協支援を通じた地域福祉推進する業務に従事してきました。また、2009年4月からは社会福祉士会理事として主にぱあとなあ北海道運営に携わり、運営委員会の運営、成年後見人養成研修等の企画運営を行ってきました。さらに2013年より本会会長として、会運営の基盤を強化するため活動しております。						
立候補理由・ 抱負	2009年4月から理事として、また、2013年から会長として、これまで、多くの諸先輩、同じ仲間の会員の力をお借りしながら、会運営全体の基盤強化に資する活動に従事してまいりました。会内部の問題への取り組みの一方で、福祉や隣接領域の関係者から社会福祉士に寄せられる社会的期待は増大していますが、まだまだ会としての発信力は脆弱であり私もまだそれらの取り組みについて強化していきたいと考えております。 そこで、今回これまでの実績や問題意識を踏まえて、さらにもう1期、北海道社会福祉士会の理事として、広域的な多くの課題克服にチャレンジし、ソーシャルワーク実践とその関連領域をつなげ、真の意味での社会福祉の基盤づくりのために尽力したいと思うに至りました。何卒よろしくごお願い申し上げます。						
推薦者-①	白戸 一秀	会員番号	1198				
推薦理由	北海道社会福祉士会の理事に高橋修一氏を強く推薦します。 生活困窮者自立支援法の施行に象徴されるように、あらゆる分野において地域を基盤としたソーシャルワークを展開する時代に入りました。「地域福祉」の時代と言い換えることができますが、これは高橋氏が長年の社会福祉協議会活動のなかで追及し実践してきたことです。 今、社会福祉士会にとって必要なのは、「ソーシャルワーク」を現場に根付かせて、地域、職域、職能を横断したネットワークにより、多様な生活困難の問題に対峙する取り組みだと思えます。制度の持続可能性を優先する傾向の中で、ソーシャルワーク志向を堅持することがとくに必要だと思えます。高橋氏には、彼がこれまで培ってきたネットワークを形成する力、広域な北海道の各地域活動を結びつける力をおおいに発揮して、いま一度、北海道の社会福祉士会活動に献身してほしいと強く願う次第です。						
推薦者-②	柏 浩文	会員番号	3701				
推薦理由	高橋さんは、本会の理事として権利擁護センターぱあとなあを担当し、現在の受任依頼から成年後見人候補者の選定に至るまでの各地区支部を中心とする合議体作りに尽力しました。また、副会長としても権利擁護センターぱあとなあ、第三者評価、障がい福祉委員会等を取りまとめ、担当理事、担当委員会の潤滑油として尽力するとともに、会長就任後も公益社団法人として新たに船出するという厳しい状況の中、会全体の運営を視野に入れた指導力を発揮し、本会を牽引するリーダーとして存分に活躍しております。職場である北海道社会福祉協議会におきましても、権利擁護課長、障がい者就労支援担当主幹、市民活動担当課長等を歴任し、組織の中核、リーダーとして、北海道の地域福祉の発展には欠かすことのできない人財であります。以上のことから、高橋さんを本会理事にふさわしいと判断し、推薦いたします。						
推薦者-③	中村 健治	会員番号	12097				
推薦理由	高橋さんは、これまで20年間わたしと同じ職場で、働いております。これまでの市町村社協支援に携わる仕事ぶりや、業務時間を離れた後の道内の社協や福祉関係者、学識経験者等との勉強会に主体的に参画し、人的つながりをつくっている姿をみてきました。ものごとを追求し、異なる価値観や幅広い観点から今の福祉と社会福祉士のあり方を考え、課題に向き合う姿勢は、北海道社会福祉士会の理事にふさわしいと考えますので、このたび理事候補として推薦させていただきます。						